

# Bridge<sup>vol.13</sup>

KINJO GAKUIN UNIVERSITY Parents' Association Report  
金城学院大学 父母会会報 [ブリッジ13号] 2017.7

## Interview

学校法人金城学院 理事長・学院長 戸 莉 創

大学が進化するための  
新たな教育課題を探る



# Interview

学校法人金城学院 理事長・学院長 戸 莉 創

## 大学が進化するための 新たな教育課題を探る



### 建学の精神や伝統を守りながら、さらなる発展に向けて

2012年より約10年計画で進められ、折り返し地点に差し掛かる「KMP21」。「これから」を生きる女性にとって常に理想的な学びの環境を提供し続ける金城学院大学。表だけでなく中身の改革も重要なテーマであり、戸莉理事長・学院長が考える進化の方向性を伺いました。

2015年から学院長を務められ、その翌年に理事長に就任されましたが、金城学院について感じられたことをお聞かせください。

本学の学院長就任へお誘いいただいた当初は、少し躊躇したというのが正直な気持ちです。それまで私は、名古屋市立大学で学長と理事長を務めており、公立大学法人とはいえ、いわば名古屋市のもとで大学の運営に携わってきました。一方、金城学院は独立した学校法人です。経営的な感覚など、これまでとは違う視点や発想が必要になるのではないかと、思い感う部分がありました。実際に就任してみると、新鮮で驚くことばかりでした。特に公立と私立との違いを大きく感じたのは物事を決めて実行するまでの自由度が非常に高いことと、そのスピードの速さです。時代の流れに呼応して、素早くそして柔軟に進化していけるのは、私立ならではだと思いました。自由度が高い分、責任も重大になってきますが、やりがいを感じています。

御祖父様も学院長と理事長を務めておられました。当時、金城学院についてお話をすることはありましたか？

私の祖父(※1)は、1956年に金城学院第2代学院長に、1961年に第4代理事長に就任しました。毎朝金城学院へ向かう姿を見ていましたが、こちらから尋ねる

ことはなく、祖父が金城学院で何をしているかは全く知りませんでした。ですが、時折、祖父に連れられて大学のキャンパスでテニスをしたことを今でも鮮明に覚えています。

私が学院長になってから当時の記録を見ると、激動の時代の中で様々な改革を行っていたようです。しかも、すべて合議制のもとで進められていたことがよく分かりました。エラ・ヒューストンホール(※2)を建設するにあたり、祖父は壮大なスケールの計画を提案したものの、実際には他の方々の意見があり、そのまま採用されることはなかったようです。祖父のプランは「幻のエラ・ヒューストンホール」と語り継がれてきたというエピソードを聞いたことがあります。今も昔もかわらず、すべての物事は合議制で決められており、また、独立法人のため第三者の力に左右されることもありません。建学の精神ならびに歴史と伝統を重んじる人々によって、言い換えれば金城学院を愛し、誇りを持っている人々の力によって、常に時代とともに変化してきたのです。私もその風土を堅持し、次代へ大切につなげていきたいと思っています。

公立と私立という違いの他に、女性教育という本学の位置づけも以前とは異なると思います。その点についてはいかがでしょうか。

前任地は共学でしたから、キャンパスの雰囲気は全く違います。しかし、「人を育てる」という目的やプロセスは変わるものではないため、女性の教育に特化した大学だからと

#### 戸莉 創(とが)り はじめ) プロフィール

- ◆ 学 位 / 医学博士
- ◆ 専門分野 / 新生児の脳生理学、新生児呼吸生理学、乳幼児突然死症候群
- ◆ 所属学会 / 日本小児科学会、日本新生児育成医学会、日本SIDS学会、日本周産期新生児医学会

昭和45年(1970)に名古屋市立大学医学部を卒業後、米国立衛生研究所NIHや米国ウイスクンシン大学、ブラウン大学に留学。平成13年(2001)に名古屋市立大学小児科学教室教授に着任した後、同大学病院病院長、学長、理事長を務め、平成26年(2014)名古屋市立西部医療センター 新生児先端医療センター長に就任。平成27年(2015)に学校法人金城学院学院長に、平成28年(2016)に同理事長に就任し、現在に至る。

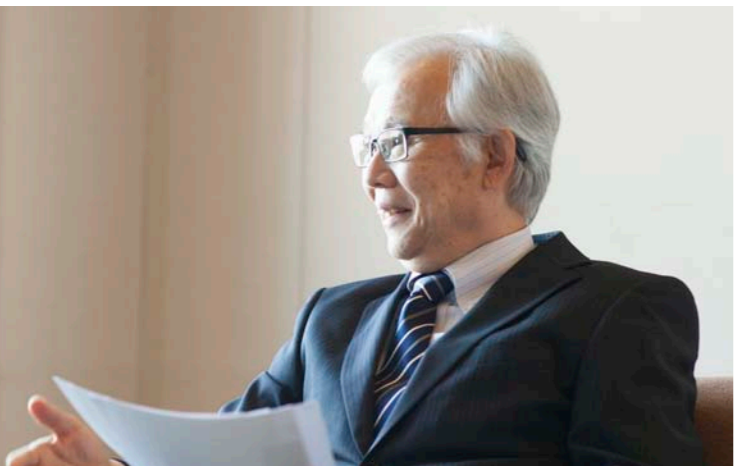
いつて、ためらうことはありませんでした。むしろ、私の専門分野が活かせるのではないかと、という期待感を持っていました。

私は小児科の中でも、新生児の脳生理学や呼吸生理学などを専門とし、40年以上にわたって赤ちゃんと母親の関係性を見ってきました。その経験や研究成果を基に「母親のあり方」を伝え教えることは、女子大学である本学に適していると考えています。

今を生きる女性のキャリアプランに、必ずしも結婚・出産・育児が組み込まれるというわけではないですね。しかし、女性として生まれた以上、将来、出産・育児をする可能性は少なからずあるでしょう。学生の今、母親としての教育を、知識のひとつとして学んでおくことは決して無駄にはならず、また、女性として自立し、社会と関わっていく上で役立つことだと思います。その一端を担うべく、共通教育科目で自身が教壇に立ち、赤ちゃんと母親との関係性などについて講義を行っており、ゆくゆくはそうした「母親学」を充実させていければと考えています。また、2015年にオープンしたKIDSセンター(※3)の準備にも関わり、開設後は子育てセミナーの講師も務めております。学生だけでなく地域の女性やお母さんにも、学びの場を提供していきたいと思っています。

専門分野として小児科の中でも新生児を対象と選ばれた理由をお聞かせください。

新生児は、小児科の中でも難易度の高い分野でした。なぜなら、新生児は意思表示



ができなかったり、小さな命を扱うため、より繊細で専門的なテクニックが要求されるからです。しかし、逆に私はその難しさに使命を感じて新生児研究の道へと進みました。そして次第に分かってきたのは、生まれつきの新生児の発育には、母親の存在が非常に重要であり大きく影響を与えるということでした。

人間教育という視点において、他にどのようなお考えをお持ちでしょうか。

金城学院といえば、もとは英語教育が有名でした。そのルーツは、アー・ランドルフ先生が女学専門冀望館を創立した時まで遡ります。ランドルフ先生は、女子に学問は必要ないと考えられていた時代に、「キリスト教の教えを日本の女性たちに広める」ことを自らの使命と考え、聖書と縫製、そして英語の教育を施されました。その後、建学の精神をしっかりと受け継ぎながら、金城学院は時代の流れにあわせて学問領域を徐々に拡大し、今日に至ります。英語教育は今も金城学院大学の強みではありますが、全学部を視野に入れてより手厚く充実した英語教育の環境整備を図っていきたくと考えています。

全ての学生に、ビジネスの世界で通用するぐらい高度なレベルを身につけてほしいと望んでいるわけではありません。ただ、英語はすでに始まっているグローバル社会における必須のコミュニケーション手段です。英語に対する苦手意識をなくすだけで、新しい

これからを生きる女性にとって、常に理想的な学びの環境であり続けたい



※1: 戸近 近太郎 (とがり ちかたろう)

1896-1977 / 医学博士 愛知県立医学専門学校を卒業後、解剖学の研究に従事し、昭和7年(1932)、名古屋医科大学の教授に着任。昭和21年(1946)に名古屋帝国大学(現・名古屋大学)医学部長に就任。昭和47年(1972)、金城学院幼稚園の初代園長に就任し、昭和31年(1956)～昭和51年(1976)第2代学院長、昭和36年(1961)～昭和51年(1976)第4代理事長を務める。

※2: エラ・ヒューストンホール

1971年から41年間、日々の礼拝をはじめコンサートや講演会などが行われ、ラウンジや図書コーナー、集客室などを備えてキャンパスライフの中心的な施設となってきた。2014年に完成したエラ・ヒューストン記念礼拝堂が役割を引き継いでいる。

※3: KIDSセンター

キリスト教精神に基づき、地域の皆様の子育てをサポートすることを目的に2015年10月オープン。センター長は人間科学部宗方 比佐子教授。おもちゃや絵本、遊具を揃えた“遊びの広場”や音楽療法室、セミナールームを設置。親子教室や子育てセミナー、座談会なども実施。

出会いや経験を得る機会が増えると思います。女性の活躍の場や可能性を広げるためにも、金城学院の伝統である英語教育を大学全体に根付かせていきたいと考えています。

学生たちを育てていく上で、大学とご家庭の役割についてどのようにお考えですか？

人は生まれて、まず最初にお母さん、そして家族とともに家庭で育ち・学び、そして小学校・中学校・高校・大学で、先生や同級生、先輩、後輩と出会い、家庭以外の様々な場所や関係を通して生きる範囲を広げ、刺激を受けながら成長していきます。私たち教職員はそのことを十分理解し、自分たちの言動がよい影響を与えられるよう、学生たちと接するように心掛けています。

一方、子どもを育てるにあたり、家庭と大学の役割はどこで線引きをするのか？そこに明確な答えはありません。全人教育を全うするためには、家庭と大学が一体となって取り組まなければならず、保護者の皆様のご理解とご協力が大変重要だと考えています。そのために、ひとつはご家庭での対話の時間を大切にしたいと思っています。

例えば、お子さまの自覚を促すために、「なぜ金城学院大学へ通っているの？」と聞いてみてはいかがでしょうか。ご家庭でお子さまに気づきを与えたら、今度は大学が向上心や専門的なスキルとつなげていく。このような関係プレーで学生を育てていきたいと思っています。

2017年度 キャリア支援センターが行う 3年生対象就職関連イベント

第5回 就職ガイダンス「内定者による就職活動報告会<就活サポーターの紹介>」	9月26日(火)～29日(金)
WEB筆記試験対策講座【基礎編②】	10月4日(水)、5日(木)
第6回 就職ガイダンス「グループディスカッションに挑戦」	10月10日(火)～13日(金)
企業パンフレット配布会	10月16日(月)～18日(水)
第2回公務員・教員 就職ガイダンス「選考の内容把握」	10月19日(木)
就職サイト活用講座	10月23日(月)、24日(火)
第7回 就職ガイダンス「内定を決める就活実践編<模擬面接を交えて>」※1	10月24日(火)～27日(金)
ご父母向け「就職説明会」	10月28日(土)
自分と向き合うワークショップ	10月頃
グループ別ガイダンスvol.1	10月30日(月)～11月10日(金)※2
第8回 就職ガイダンス「第一印象で差をつける<マナー講座>」	11月21日(火)～24日(金)
日本経済新聞活用講座(第1回・第2回)	11月頃
社労士に聞く給与明細の仕組み	11月頃
医療・福祉 内定者報告会&就職ガイダンス	11月頃
1DAY就活全部体験講座※1	12月9日(土)
就職筆記試験対策講座 直前模擬試験	12月12日(火)～15日(金)
就活サポーターOG懇談会	12月16日(土)
第2回幼保小 就職ガイダンス「内定者報告会」	12月頃
食環境栄養学科就職ガイダンス	12月頃
WEB筆記試験対策講座【応用編】	1月10日(水)、11日(木)
エントリー企業リストの提出	1月9日(火)～22日(月)
今こそ受ける集団模擬面接! 怒涛の三連発!!	1月17日(水)
グループ別ガイダンスvol.2	1月下旬～5月
就活キックオフセミナー	3月頃未定
学内企業セミナー	3月頃未定
第3回幼保小 就職ガイダンス「履歴書の書き方」	3月上旬
管理栄養士企業セミナー	3月頃
第4回幼保小 就職ガイダンス「模擬面接」	4年次 5月中旬
教員採用試験説明会	4年次 5月中旬
保育士就職対策模擬試験	4年次 5月中旬
公務員・教員試験直前面接練習	4年次 8月頃

※1:幼稚園・保育園・小学校への就職希望者を除く ※2:土日祝を除く



キャリア・アップ講座

就活のためのスキルアップをサポートし、内定の近道へと導きます。多くの在学生が受講しており、高い評価をいただいております。

9月募集 【講座申込期間】 9/25(月)～9/27(水)

公務員	公務員試験 一般教養試験対策講座(Step.3完成コース) 公務員模擬試験【行政職】(教養科目+小論文)
教員	教員採用模擬試験(12月受験コース)
企業	実践!面接会話術 採用担当者に好印象をもたれるエントリーシートや論文の上手い書き方講座 独学では教えてくれないSPI3(筆記試験)テクニック 【DVD&テキスト】SPI対策講座(秋期コース) 何をすればいいか?わかる自己分析講座 自分にあつた業界や職種に気づく講座 採用担当者に好印象をもたれる履歴書やエントリーシートの上手い書き方講座
マナーおもてなし	美文字テクニック 採用担当者に好印象をもたれるマナー講座
メイク身だしなみ	第一印象を良くする就活定番メイク(A・Bコース)

12月募集 【講座申込期間】 12/4(月)～12/6(水)

公務員	公務員試験 一般教養試験対策講座(Step.4直前コース) 公務員模擬試験【行政職】(教養科目+小論文) 公務員模擬試験【保育職】(教養科目+小論文+専門科目)
教員	教員採用試験対策講座(教養コース) 教員採用試験対策講座(小学校全科コース)
企業	東証一部上場企業の元採用担当者が行う45分マンツーマン個人面接テクニック 【DVD&テキスト】SPI対策講座(冬期コース) 他大学生と本番さながらに学ぶ!グループディスカッション講座 友達と一緒に学ぶ!ひとときを際立つ面接テクニック 訳あり学生!まだ間に合う!就活キックアップ講座
パソコン	MOS Word2016スペシャリスト試験対策講座(春休みコース) MOS Excel2016スペシャリスト試験対策講座(春休みコース)
マナーおもてなし	ホスピタリティな資格!サービス介助士検定取得講座(春休みコース)
メイク身だしなみ	面接官が会いにくくなる!キラリと光る履歴書用メイクフォト

研究トピックス  
海外研修助成費を  
いただいて

文学部 外国語コミュニケーション学科  
桑原 牧子 教授  
フランス領ポリネシアの  
核実験後の地域再編



父母会海外研修助成費を受けて2016年夏、核実験後の地域再編についての文化人類学的研究のためにフランス領ポリネシアを訪れました。今回の訪問の主たる目的は、核実験が行われたムルロア環礁とファンガタオファ環礁に近く、核実験後方基地であったツアモツ諸島ハオ環礁、および、タヒチ本島にて現地調査の基盤を作ることでした。

核実験期間中、ハオ環礁には核実験研究所があり、軍関係者が居住し、多くの雇用も生んでいたことから、住民の生活は経済的に潤い活気に溢れていました。しかし、フランス軍は大気圏内実験に使用し放射能物質が付着した航空機を環礁で洗浄し、関連廃棄物を地面に埋めていました。実験終了後から研究所や軍関係者の住居や施設は徐々に解体され、現在では少し残るのみになっていました。軍関係の仕事もなくなり、コブラや漁業を生業とする暮らしに戻っていました。環礁唯一の村であるタペア村は環礁中央に位置し、約1000人が暮らしています。小学校に加えて中学校もあり、中学校のない周辺の環礁から生徒が寮生活を送りながら学んでいます。

筆者の滞在中、フランス領ポリネシア政府と中国民間企業が提携しての養魚場建設プロジェクトが進んでいました。住民は、現金収入源が少ない環礁に雇用をもたらす面では養魚場を好意的に受け止めている一方で、環礁内を汚染し、住民自ら食べる魚が減少する面においては懸念を抱いています。養魚場建設は雇用を生むが、自然環境を破壊することから核実験と同じであるとの声が上がっていました。

ハオ環礁に加えてタヒチ本島でも調査を行いました。2001年にムルロア・エ・タタウという団体がタヒチ島首都パペエにあるプロテスタント教会の支援のもとに設立し、広島・長崎、福島・マッシュル諸島の被害者支援団体とも交流を取りながら核実験施設の元労働者の被害補償申請の支援活動を行っています。2014年には、カトリック教会の神父たちが中心になってアソシアシオン193という団体が設立されました。アソシアシオン193はムルロア・エ・タタウと連携をとりながら、放射能被ばくによる自然環境や人体への影響についての教育活動に力を入れてきました。また、ムルロア・エ・タタウが主に核実験施設の元労働者を支援してきたのに対し、アソシアシオン193はフランス領ポリネシア全域に放射能物質の飛散があったこと、放射能汚染は自然環境を破壊し漁業と農業に多大な損害を与え、健康被害をもたらしたと主張しています。タヒチ島を拠点に教会ごとにと署名活動を開始し、現時点ではその活動はフランス領ポリネシア全域に拡大しています。今回の調査では、ムルロア・エ・タタウのメンバーとタヒチ島ピレー地区にて活動しているアソシアシオン193のメンバーに聞き取りを行いました。

核実験の影響についての本研究は、計画当初、キリスト教教会を基盤としたネットワークを通していかに関わる予定でしたが、今回、ハオ環礁を訪れ、人々の暮らしはタヒチ本島での活発な支援活動や政治運動とは異なる次元で営まれており、現地調査を通して彼らの生活実践を拾い上げることは、実験後の地域再編を考察する研究では重要なことに改めて気が付きました。本年度から科学研究費の助成を受けて本格的に研究を開始することができるようになりました。そのため、父母会海外研修助成費を受けて非常に有意義な事前調査を実施することができたからであり、誠に感謝しております。

予算及び決算につきまして、主な点を説明します。

▶ 2016年度決算について

すべての事業につきまして、予算内で実行することができました。就職支援及び1年生対象の基礎学力向上のための助成や、学生が学習成果を公表するための助成をはじめ、大学生活を充実させるための様々な助成を行いました。

▶ 2017年度予算について

今年度もキャリア支援の充実を引き続き行ってまいります。2012年度より実施している「KMP21(金城学院キャンパスマスタープラン)」により、大学キャンパスの整備が進んだことから環境整備助成費を減額すること、また次年度への繰越金を適正な額とするために積立金を減額することが承認されました。

今年度も夏休みに地区別懇談会を開催します。

例年どおり4会場で開催する予定です。開催日程は以下の通りです。大学の現状や当該地域における就職状況説明の後、懇談の時間を設けております。各地区の方々には、別途ご案内を送りしております。

四日市	浜松	金沢	岐阜
8月26日(土) 13:30~16:00 四日市都ホテル	9月2日(土) 13:30~16:00 グランドホテル浜松	9月9日(土) 13:30~16:00 ホテル金沢	9月16日(土) 13:30~16:00 岐阜グランドホテル

# 総会報告

去る2017年5月31日(水) 大学にて父母会総会が開催され、2016年度の事業報告・決算、2017年度の事業計画・予算などが承認されました。

収入の部	◎2016年度収支決算			◎2017年度収支予算		
	決算額	予算額	増減	2017年予算額	2016年予算額	増減
前年度繰越金	16,628,044	16,628,044	0	11,985,500	16,628,044	△4,642,544
入会金 7,000円	8,477,000	8,477,000	0	8,771,000	8,477,000	294,000
会費 12,000円	62,454,000	63,660,000	△1,206,000	63,552,000	63,660,000	△108,000
雑収入 預金利息	10,190	100,000	△89,810	100,000	100,000	0
合計	87,569,234	88,865,044	△1,295,810	84,408,500	88,865,044	△4,456,544

支出の部	◎2016年度収支決算			◎2017年度収支予算		
	決算額	予算額	増減	2017年予算額	2016年予算額	増減
学生教育助成費	1,882,200	3,800,000	△1,917,800	3,800,000	3,800,000	0
学生キャリア教育助成費	14,952,880	14,952,880	0	14,828,560	14,952,880	△124,320
学生活動助成費	10,530,000	11,047,000	△517,000	11,034,400	11,047,000	△12,600
学生指導助成費	2,224,023	3,183,000	△958,977	3,177,600	3,183,000	△5,400
教育研究助成費	12,148,941	12,173,000	△24,059	13,065,000	12,173,000	892,000
教員研修助成費	2,223,216	3,950,000	△1,726,784	3,950,000	3,950,000	0
事務研修助成費	1,600,000	1,600,000	0	1,600,000	1,600,000	0
地区別懇談会助成費	3,266,659	4,000,000	△733,341	4,000,000	4,000,000	0
卒業記念事業費	4,000,000	4,000,000	0	3,000,000	4,000,000	△1,000,000
環境整備助成費	5,000,000	5,000,000	0	2,000,000	5,000,000	△3,000,000
父母会活動費	7,588,883	8,900,000	△1,311,117	8,900,000	8,900,000	0
学生施設建設助成積立金	5,000,000	5,000,000	0	2,000,000	5,000,000	△3,000,000
周年事業積立金	5,000,000	5,000,000	0	2,000,000	5,000,000	△3,000,000
雑費	166,932	1,000,000	△833,068	1,000,000	1,000,000	0
予備費	0	5,259,164	△5,259,164	10,052,940	5,259,164	4,793,776
次年度繰越金	11,985,500	—	11,985,500	—	—	—
合計	87,569,234	88,865,044	△1,295,810	84,408,500	88,865,044	△4,456,544

特別会計の部

	組入額	
周年事業積立金	31,000,000	
学生施設建設助成積立金	10,000,000	

	◎2016年度事業報告	◎2017年度事業計画
入学式後の父母対象大学説明会	2016年4月1日(金) 入学式後を利用して、入学生の父母を対象に以下の内容について説明を行った。 ①キリスト教教育について ②教育方針等について ③学生生活について ④大学父母会の活動について	2017年4月1日(土) 入学式後を利用して、入学生の父母を対象に以下の内容について説明を行った。 ①キリスト教教育について ②教育方針等について ③学生生活について ④大学父母会の活動について
役員会	2016年5月20日(金) ●役員会 総会審議事項の確認 ①2016年度事業報告 ②2015年度会計報告 ③2016年度役員・委員候補者 ④2016年度事業計画 ⑤2016年度予算 教育懇談 ●新旧役員及び大学役職者の歓送迎会	2017年5月19日(金) ●役員会 総会審議事項の確認 ①2016年度事業報告 ②2016年度会計報告 ③2017年度役員・委員候補者 ④2017年度事業計画 ⑤2017年度予算 教育懇談 ●新旧役員及び大学役職者の歓送迎会
総会	2016年6月1日(水) ●総会 ①2016年度事業報告 ②2016年度会計報告 ③2016年度役員・委員候補者 ④2016年度事業計画 ⑤2016年度予算 ●全体説明会 ①大学の現状報告 ②就職状況について ●講演会 演題:シューベルトと日本の歌曲をバリトンの歌声に乗せて 講師:文学部音楽芸術学科 能勢 健司 准教授 ●学科別懇談会	2017年5月31日(水) ●総会 ①2016年度事業報告 ②2016年度会計報告 ③2017年度役員・委員候補者 ④2017年度事業計画 ⑤2017年度予算 ●全体説明会 ①大学の現状報告 ②就職状況について ●講演会 演題:女性の健康のために知っておきたい骨粗しょう症とその予防法 講師:株式会社ファンケル執行役員・ファンケル大学専任教授 山口 宏二 本学客員教授 ●学科別懇談会
地区別懇談会	四日市/2016年8月20日(土) 父母・学生出席者/110名 岐阜/2016年8月27日(土) 父母・学生出席者/156名 浜松/2016年9月3日(土) 父母・学生出席者/96名 金沢/2016年9月10日(土) 父母・学生出席者/22名 ●大学の教育方針について ●学生生活について ●就職状況について ●自由懇談	四日市/2017年8月26日(土) 浜松/2017年9月2日(土) 金沢/2017年9月9日(土) 岐阜/2017年9月16日(土) ●大学の教育方針について ●学生生活について ●就職状況について ●自由懇談
委員との懇談会	2016年11月4日(金) ●講演会 演題:「人間言語のメカニズム解明を目指して—生成文法における統語論研究—」 講師:文学部 学部長 高野 祐二 教授 ●父母会役員・大学役職者とクラス委員との懇談会	2017年10月20日(金) ●講演会 ●父母会役員・大学役職者とクラス委員との懇談会
定期懇談会	2016年12月2日(金) ●大学の近況報告 ●父母会活動報告 ●教育懇談	2017年12月1日(金) ●大学の近況報告 ●父母会活動報告 ●教育懇談
役員会	2017年2月10日(金) ●今年度父母会活動の総括 ●卒業記念品について ●教育懇談	2018年2月9日(金) ●今年度父母会活動の総括 ●卒業記念品について ●教育懇談
役員会	2017年3月18日(土) ●次年度日程について	2018年3月17日(土) ●次年度日程について

## 金城学院大学父母会 会長 社本 光永

今年度も引き続き父母会会長を務めさせていただきます社本と申します。

会員皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は父母会の活動に深いご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

大学の取り組みや父母会活動についてご報告させていただく父母会会報誌「Bridge」第13号が完成しましたのでお届けいたします。

5月31日に開催されました総会には、お忙しい中多数の方々にご出席をいただき誠にありがとうございました。皆様のご協力によりまして、別頁に掲載しております議案につきまして、すべて原案通り承認いただきました。総会後には大学全体説明会、山口宏二客員教授(株式会社ファンケル執行役員・ファンケル大学専任教授)による講演会そして学科別懇談会を行い、すべてのプログラムが爽りあるものでありましたことを大変喜んでおります。ご協力いただきました教職員の皆様にも心よりお礼を申し上げます。

現在、大学において「KMP21(金城学院キャンパスマスタープラン)」が進み、美しく、使いやすいキャンパスへと整備されてまいりました。これからも学生たちが生き生きとしたキャンパスライフを送るための安全で機能的な大学施設がさらに充実していきます。

最後になりましたが、今後も父母会へのご支援を賜りますようお願いするとともに、会員皆様のなご一層のご健勝を心からお祈り申し上げまして、ごあいさつに代えさせていただきます。

## 金城学院大学 学長 奥村 隆平

父母会会員の皆様には、学生への奨学金や課外活動に対する助成をはじめ、本学の教育や研究に多大のご支援をいただき、さらには、2016年度卒業記念品としてベンチとテーブルセットをご寄付くださり、心より感謝いたします。

2012年度より実施しております「KMP21(金城学院キャンパスマスタープラン)」は、エラ・ヒューストン記念礼拝堂、N1棟、N2棟、W3棟、センターコートが完成し、全体で3期にわたる大学キャンパスリニューアルのうち、第2期まで終了いたしました。この「KMP21」を通して、学生の多様な交流を促す空間を創出し、安全で使いやすく質の高い教育・研究環境を整備してまいります。

今後の本学の運営方針といたしましては、建学の精神、すなわち「福音主義キリスト教に基づく女子教育」、「全人的な一貫教育」、「国際理解の教育」を堅持しつつ、教育と研究の一層の発展を目指します。また、学生諸君には金城学院大学で学んだことを大切に、就職面や資格取得面で怠りないよう心掛けつつ、女性としての社会貢献はいかにあるべきかを常に考えていただきたいと思っています。

私が考える本学の大切な特色は、建学の精神にもあるように「福音主義キリスト教に基づく女子教育」ですが、それとともに「森の中のキャンパス」という面もあります。第一の点について言えば、今後、世の中は少子高齢化でますます労働力が不足し、今以上に女性の社会進出が期待されるようになり、リーダーシップを発揮できる女性がさらに必要とされる時代になるでしょう。本学の教育スローガンである「強く、優しく。」を掲げ、広い教養、高い専門的知識、あるいは的確な技能など社会で生きる上での強みを持ちながら、隣人に対して愛をもって接することのできる優しさを身につけた女性の育成に尽力いたします。そして、もうひとつ、緑に包まれた「森の中のキャンパス」については、キャンパス内に里山がある環境で学ぶことにより、自然との共生や自然環境の保護に目が向けられていくことでしょう。日本と世界の未来を考えると、環境問題について無関心ではられません。この意味で本学は学びの場として理想的な環境を提供しているのです。

金城学院大学は、これまでキリスト教精神に基づく女性のための理想的な教育を追及してまいりました。これからもその歩みを続けてまいります。

## Campus Topics | 学内トピックス

### 2016年度卒業記念品として ベンチとテーブルセットを寄贈

W3棟前のセンターコートにベンチを設置、また、W3棟ビロティと見晴らし台に、テーブルセットを設置いたしました。キャンパスに学生たちが憩い集う新たな場所が生まれました。

